



NAGASAKI KEIZAI DOYUKAI

深圳經濟視察団 報告書

視察日程：2018年7月22日～25日

長崎経済同友会 佐世保地区

-2018年8月-

視察の目的

長崎経済同友会佐世保地区では、「労働力減少時代における I C T 活用に係る提言～企業の I C T を活用した生産性の向上～」を平成 3 0 年 5 月に発表した。

これに関連して、今後のまちづくりのヒントを得るべく「中国のシリコンバレー」とも呼ばれる深圳市を視察することとした。

【視察の目的】

①世界のイノベーションの潮流を肌で感じ、 I C T を中心としたまちづくりを進めてきた深圳市の成長過程とその要因を知る。

②企業や支援組織等の視察を通じ、スタートアップ企業の成長ストーリー、支援体制の実例や手法を学ぶ。

訪問団メンバー

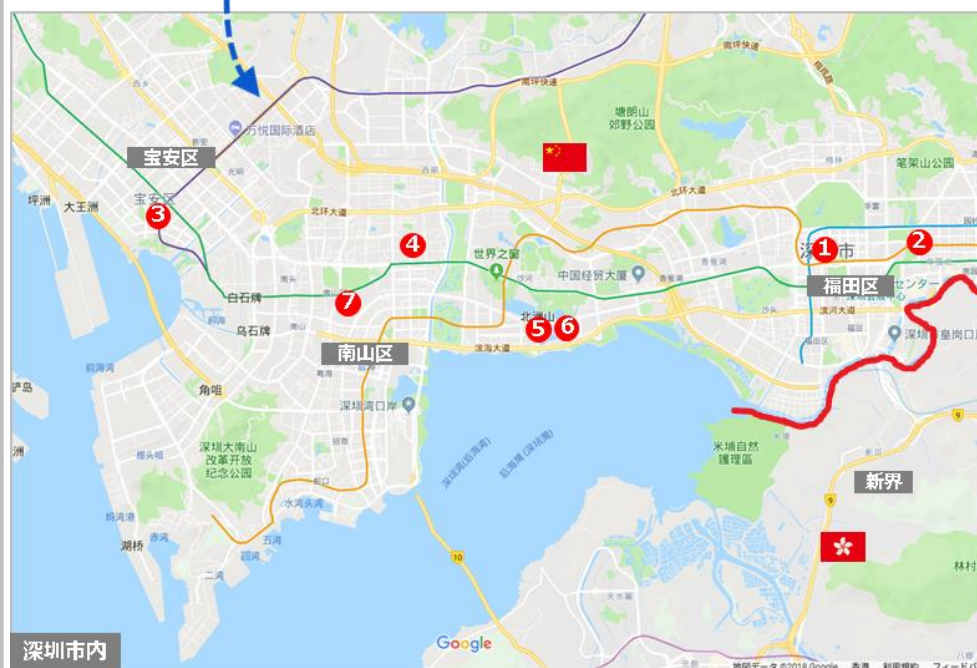
氏 名	所 属	役 職	備 考
西沢 雅幸	株式会社西沢本店	代表取締役社長	【視察団長】副代表幹事・企画委員長
橘高 克和	株式会社橘高	代表取締役社長	副代表幹事・生産性向上推進委員長
加納 洋二郎	相浦缶詰株式会社	代表取締役社長	幹事
池野 晋一	有限会社酒の一斗	代表取締役	
原 浩志	株式会社 J T B 長崎支店佐世保営業所	営業所長	
福島 聡	株式会社親和銀行	取締役常務執行役員	
三谷 秀和	株式会社日本エコネット	代表取締役	
井川 浩二	長崎経済同友会	事務局長	株式会社親和銀行 地域振興部
長 真太郎	株式会社福岡銀行 香港駐在員事務所	所長	視察団アテンド
F r a n L o	株式会社福岡銀行 香港駐在員事務所	秘書	視察団アテンド（通訳）
川ノ上 和文	株式会社エクサイジングジャパン	代表取締役 C E O	視察団コーディネーター（兼通訳）
K e n t L i n	T o u r s 4 T e c h	C E O	視察団コーディネーター

2. 視察スケジュール

スケジュール

7/22(日)	16:40 福岡空港発 19:15 香港空港着 (KA381) 20:15 空港出発、ホテルへ移動 21:00 香港ホテル到着 ※福岡空港落雷の影響で 上記スケジュールから約2時間の遅れ
7/23(月)	08:00 香港ホテル出発、深圳へ移動 10:00 深圳市工業展覽館 ① 11:15 昼食 ※川ノ上氏・Lin氏合流 12:30 華強北電気街 ② 14:30 Insta360 (スタートアップ企業見学) ③ 16:30 潤加速視察 (アクセラレーター施設見学) ④ 18:30 深圳ホテル到着 19:30 夕食
7/24(火)	08:30 深圳ホテル出発 09:00 OCTハーバー (各種サービス体験等) ⑤ 10:00 DJI旗艦店 (ドローン見学) ⑥ 12:00 昼食 ※川ノ上氏解散 13:30 ハイテクパーク ⑦ 14:00 香港へ移動 16:00 香港ホテル到着 18:30 夕食
7/25(水)	08:00 香港ホテル出発 08:45 空港チェックイン 11:05 香港空港発 (KA380) 15:30 福岡空港着

所在地



深圳市の経済データ（2016年）

2017広東省統計年鑑（2017年10月 J E T R O 広州より）

面積	2,050平方キロ（東京都とほぼ同じ）	固定資産投資	4,078億元（6兆6,838億円）
人口	常住人口 1,191万人（2016年） 戸籍人口 400万人（2016年）	消費	5,513億元（9兆358億円）
通貨（※）	人民元 （1人民元 = 16.39円）	貿易（輸出）（※）	2,373億ドル （26兆4,186億円）
G D P	19,493億元 （31兆9,490億円）	貿易（輸入）（※）	1,611億ドル （17兆9,352億円）
一人当たりG D P	167,411元 （2,743,866円）	対内投資（※）	67.3億ドル （7,492億円）
一人当たり 可処分所得	48,695元 （798,111円）	市民平均年齢	3 2 歳

※2018.7.23日の終値
1ドル = 111.33円

深圳市の歴史

■人口33万の小さな漁村から1,000万人を超えるイノベーション都市へ
1970年代は人口33万人の小さな漁村であった深圳市は、1980年改革開放路線を踏襲した鄧小平が経済特区に指定すると急速に発展した。貿易輸出額の推移で見ると、1987年7.98億ドルであったのが、1992年には100億ドルを突破、2016年には2,373億ドルに達し、24年連続中国国内首位を維持するまでとなった。
当初は労働集約型産業として電子系・軽工業などの輸出が主であったが、その後ハイテク産業が集積し「中国のシリコンバレー」と呼ばれるほどのイノベーション都市に変貌した。
また、物流の拠点としての役割も増し、上海、シンガポールに次いで、香港を凌ぐ貿易港に成長した。

深圳の重点産業

【戦略新興産業】

①インターネット②新エネルギー③新素材④次世代情報技術（IT技術）⑤生物・バイオ⑥文化クリエイティブ⑦省エネ・環境

【4大支柱産業】

①金融 ②現代物流 ③ハイテク ④文化クリエイティブ

4. 「イノベーション都市」としての深圳①

深圳 10大思想

■ 深圳市人民政府が掲げる 10大思想に、深圳の発展を見る（抜粋）

①タイムイズマネー、効率に命（深圳速度）

進化のスピードはこの思想が根幹。地下鉄は2008年の2路線から2017年は8路線、2035年には20路線に（街の拡張）高層ビルが立ち並ぶハイテクエリアは急速に発展。高層ビルの密集度は中国随一。
 未完成のものでもどんどん市場に投入するスピード感。平均年齢32歳の若い街の特徴。

②イノベーションを奨励し、失敗に寛容に（試行錯誤）

深圳の創業環境はこの思想が根幹。国家方針として「大衆創業、万衆創新」を掲げ、チャレンジ精神を後押しする。
 深圳は社会実験都市としての役割を果たす。

③来たらあなたは深圳人（多様性）

深圳は多様性を受け入れる街。海外留学を経験し帰郷する人（海亀という）は、2000年の1,000人から2017年は8万人。
 他国から新しい概念を持ち帰る人材を歓迎する。帰郷した「修士」「博士」には政府が補助金で創業を支援する。

④深圳、世界との距離はない（グローバル思考）

創業者ははじめてからグローバルなマーケットをターゲットとしている。

深圳の都市計画

■南山区（ハイテクエリア）

- ・ AI・VR・フィンテック・IoTなど、ハイテク産業が多く集まる。
- ・ 「深圳湾創業広場」には、深圳市が運営するベンチャーキャピタル、スタートアップ企業が集積。

■前海自由貿易区

- ・ 経済特区である深圳市の中に、さらに「金融特区」を設け、金融テクノロジーの集積を図る。（建設中）

■産業基地計画

- ・ 産業をベースに都市開発を行う。
- ・ 郊外を開発し、地区ごとに産業を集積していく。

■その他

福田区（金融・証券）、宝安区（ロボティクス・ドローン・航空）
 坪山新区（新エネルギー・EV）、塩田区（ゲノム・バイオ）

4. 「イノベーション都市」としての深圳②

産学官連携

- 深圳大学（深圳唯一の総合大学）
 - ・ 卒業生の深圳内での就職率は86%
 - ・ 創業実践コースや産学連携プロジェクトなどを通じて産業人材を育成。
 - ・ 支援したい産業に関して、リーディング企業から講師を招聘し人材を育成する。
企業側も人材の育成・確保につながり、全面的なバックアップ。
 - ・ 風水上よくないとされ、中国の大学にはほとんどない「西門」がある→西洋諸国を向いている
通常のゲート状ではなく、アーチ部分がない門→空高く発展し続けるため

なぜ深圳なのか？

- 広東省を軸とする「Greater Bay Area」の要であり、中国の1級都市として最も若い。（街としても、人も）
 - 華僑経済への窓口となりうる。
- ※中国が国際社会でますます影響力を持ち“一帯一路”戦略を進めるうえで、点在する約4,000万人の華僑経済は要である。
地球上に最も広く分布しているネットワークであり、今後発展が見込まれるアフリカにも強い。
- 環境都市を掲げ緑や住環境を整備し、若い優秀な人を呼び込み新しい産業を作っていくことを目指している。
 - 若く、スピード感を持ち、国・政府がイノベーションを後押しする。多様性を受け入れる風土から人材も集まり、起業精神も旺盛。企業のバックアップ、大学との連携も含め、常にグローバルな視点でイノベーションを推進している。

深圳発展の要因を探る

【歴史的視点】

国家政策
(経済特区に指定)

労働集約型製造業の発展
輸出の拡大

人材の集積
モジュール・技術の集積

ハイテク産業の発展

【地理的視点】

貿易港としての発展
香港を凌ぐまでに成長

粵港澳大湾区構想
世界有数のベイエリアへ

近隣都市とを結ぶ
交通網の発達

世界有数の国際都市
香港との近さ

【政策的視点】

1980年経済特区に指定

戦略的重点産業の制定
経済特区・金融特区

都市計画
地区ごとに産業を集積

人材投資・人材集積
優秀人材に助成制度

【まちづくり的視点】

若者が住みやすい街
環境配慮したまちづくり

スマートシティ構想

教育・医療支援の充実

サービス産業の充実

【思想的視点】

タイムイズマネー、
効率 は 命 (深圳速度)

イノベーションを奨励し
失敗に寛容 (試行錯誤)

来たらあなたは深圳人
(多様性)

深圳世界との距離は
ない (国際的視点)

★ 深圳発展のキーワード ★

- 国家政策に基づく、戦略的な産業育成・起業家の育成
- 地理的優位性を活かしたグローバルな事業展開
- 人材集積のための、環境に配慮した住みやすいまちづくり
- グローバルな視点で、多様性を重んじ、スピード感をもって挑戦を続ける思想

概要

- 深圳市人民政府に隣接した博物館。
産業面から見た深圳の発展の歴史、イノベーション都市深圳を支える産業を知ることができる施設。
- 小さな漁村であった深圳市だが、1980年に経済特区に指定された以降、この約40年間で急速な進歩を遂げた。
当初は製造拠点、加工貿易の拠点として非常に重要な場所であったが、徐々にハイテク産業の集積地となり、A I ・ V R ・ I o T など、より付加価値の高いイノベーションを生み出す街へと変貌した。
- 深圳の公共バスの95%以上は電気バス化、タクシーも80%以上が電気自動車化するなど、グリーンシティとして環境に配慮し住みやすい街づくりに傾注。合わせて、補助金や教育・医療手当などを充実させ、若く優秀な人材の定着にもつなげている。



深圳市工業展覽館 入口



深圳の現状を紹介するビデオ視聴



深圳の産業の変遷の展示



深圳の高層ビル群を背景に

概要

- 電気街 (規模は秋葉原の30倍といわれる)。深圳の象徴的な場所として日本人が多く訪れる。
- 電子部品マーケットで、商品は主に業者向け。
- スマートフォン、スマートホーム、ドローンなど、様々な機器のモジュール (ハードウェアやソフトウェアを構成する個々の部品) が集積しているマーケットであり、それらのモジュールを組み合わせて新しい商品が生まれていく。



- 電気ビル内には店舗が濫立
- 様々なモジュールを組合せ新しい商品を生み出す



- モジュールの廉価版が出回り商品の価値が長持ちしない
- 付加価値を生み出すためにブランド化の動きが見られる



- フルーツ、ジュースの自動販売機
- 近年、自動販売機の設置が増加
- 電子決済の普及がその要因
- 現金管理不要、自販機内の現金盗難リスクが低減したため



- 電子決済の普及により無人コンビニも登場
- スマホでQRコードをかざして決済、商品を取り出す



- スマートホームの店舗
- 多様なモジュールが展示



概要

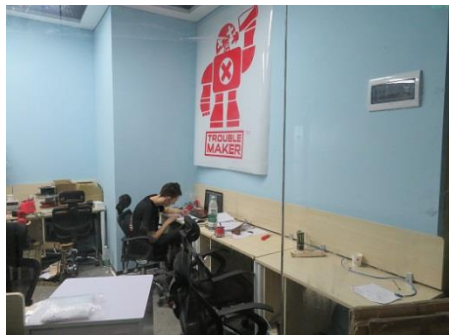
- メーカー＝個人や少人数のものづくり業者
- SGEグループ、華強グループなどがスタートアップ支援のコワーキングスペースを運営。
- ラボラトリールーム、セミナールーム、ミーティングルーム、作業ルームを設置。
- ベンチャーキャピタルも入居し、グループの紹介により企業の紹介も行っている。



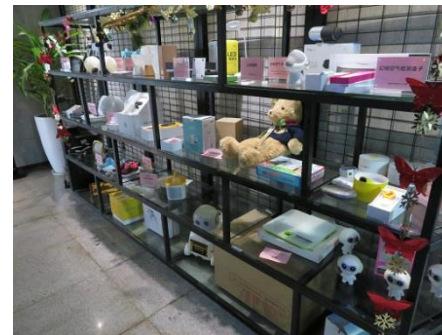
華強北国際創客センター入口



支援企業には国内外のビッグネームが並ぶ



コワーキングスペース



支援により製品化された商品

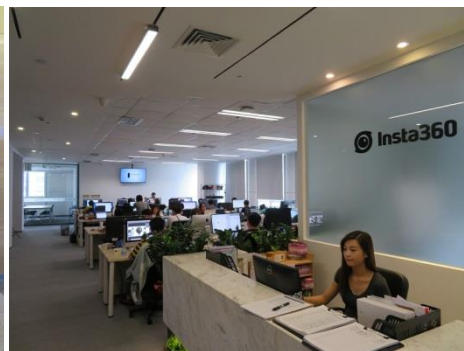


会社概要

- 会社名：Shenzhen Arashi Vision Co.,Ltd（商品ブランド名：「Insta360」）
- 特徴：世界レベルの360度カメラブランドで市場シェア世界一。Facebook公式のおすすめカメラに認定。
- 創業2014年。創業者（CEO）は劉靖康（リウ・ジンカン）27歳。南京大学卒。
2017年Forbesが発表した「アジアを代表する30歳未満の30人」に選出される。
- 社員数250人（社員平均年齢28歳）。開発者比率50%以上。アメリカ、イギリス、ドイツ、ロシアなどの人材も活躍。
- 会社創立以来、億元以上の投資、融資を受けて、現在では100カ国以上に輸出するハードウェア業界のユニコーン企業。



集合写真



開放的なオフィス
社員はほぼ20代



当社商品
「Insta360 One」



会社概要と事業戦略の説明



集合写真
「Insta360One」で撮影

Q：起業するにあたり・・・なぜ深圳なのか？

A：南京大学卒業後、南京で起業するも不便さを感じ、深圳に移転してきた。
工場や部品などのサプライヤーも充実し生産体制が確保できる。
深圳、香港、マカオは国の大湾区プロジェクトとして貿易の拠点でもあり、
グローバルビジネスに便利な街である。
ベンチャーキャピタルなどの投資も活況である。
また、大学を卒業した学生（海外留学したものも多い）が、自分の実力を試す
ことができ、収入も多く、将来へのチャンスが広がることから、深圳に人材が
集まってくる。

華潤グループ概要

- 中国中央企業 (※) のひとつ。(※) 国有企業のうち、中央政府の管理監督を受ける企業。
- 2017年中国のグローバル企業500のランキング86位。従業員は30万人を超える。
- 経営分野は電力、不動産、消費財、医薬品、金融、セメント、ガスなど多岐にわたる。
- 小売とビールの経営規模は全国一。雪花啤酒、怡宝水、万家超市、万象城は全国的人気のある有名ブランド。
- 香港市場において華潤創業、華潤電力、華潤置地、華潤微電子、華潤燃気、華潤水泥の6社が上場。
- 2017年度 総資産12,159億元 (19兆9,286億円) 営業収入5,554億元 (9兆1,030億円) 純利益384億元 (6,293億円)
- 産業促進を目的に、グループ力を活用し事業リソースのマッチングを行っており、2016年からはファンドも運営。
- アクセラレーターとしての役割も担っている。



※アクセラレーターとは？

スタートアップ企業の支援手法。イノベーションを重視しビジネスモデルや会社を構築することを目的とし、革新的なアイデアを生み出す「インキュベーター」に対し、「アクセラレーター」はビジネスの拡大に焦点を当て、既にある企業の成長を「加速する」(アクセラレート)ことを役割とする。

南山科技金融城

- 人民政府が主体となり華潤グループの都市運営能力などを活用し、フィンテック産業の集積地として開発を行っている地区。
- 南山科技金融城は深圳市南山区のハイテクパークの中心に位置し、北京銀行をはじめとしたオフィスビルが建ち並び、商業施設や居住施設、アクセラレーター施設などのほか、ビル内には環境に配慮した都市農場なども整備される。



南山科技金融城の外観
(華潤置地HPより)



アクセラレーター「潤加速」
(華潤置地HPより)



模型による説明

潤加速

- 産業を育てることが最大の目的。
- アクセラレーターとして、スタートアップ企業に対しマッチングや空間の提供など「華潤」のグループ力を活かした支援を行う。
- 不動産開発、出資、アライアンスなどを活用。地域ごとに特徴ある産業を生み出す。

【役割】

- 多様な産業を抱える「華潤グループ」のリソースを活かして、スタートアップ企業のビジネス加速の支援を行う。
- オフィス空間の提供、産業マッチングを行う。デザイナーと連携し快適なオフィス空間を提供する。

【産業の育成】

- 華潤グループを中心とした産業マッチング、技術プレゼンなどのイベントを年間45回開催。→ユニコーン企業を探す。
- 産業パークにテーマを付けてその産業を作っていく。これを華潤グループ（デベロッパー）が運営しているイメージ。
- 他のハイテク企業とも連携しながら、エリア全体でコラボレーションして産業を育てている。
→南山区で言えば、金融×テクノロジー（南山科技金融城）
- ファンドとも連携し、産業ごとにファンドを作って出資する。
- アクセラレーターの出口→育てた企業を買収する意向はない。
（政府の働きかけで結果的に買収したケースはあるが…）

【大学との連携】

- 企業内大学を運営。
- 研修プログラムの分野では、オンラインスクールと連携している。
- 大学自体が「アクセラレータープログラム」に参加したいという事例もある。
- MIT（マサチューセッツ工科大学）と連携。学生と投資家のマッチング、インターンのサポートを行っている。

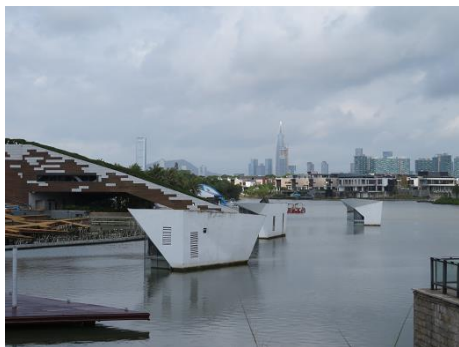
【他国との連携】

- マッチングイベントでお互いのリソースを持ち寄ることで、日本企業との連携も可能。しかし、窓口がなく接点がないのが現状。
- 韓国とはディスプレイの分野で連携している。



（潤加速が入居するビル。周囲では開発が続く）

OCTハーバー



- 中国中央企業・華僑城が管理・運営するテーマパーク。
- 人口湖の周辺に飲食店・美術館・商業施設等を整備。
- 週末にはショーなども開催され、若者や家族連れが集う。
- 家族が住みやすいまちづくりが意識的に進められている。
- 駐車場も整備。深圳ナンバー以外の車は駐車できないなどの規制も行われている。

シェアサイクル



- 市民の足として定着したシェアサイクル。
- テンセント系（オレンジ）、アリババ系（青）など。
- スマホにより開錠と決済。
- 乗り捨て可能。運営側は、利用料金収入が目的でなく、利用状況のデータ（ビッグデータ）収集を狙う。
- ビッグデータの活用は、データ購入者のアイデア次第。
- 故障を少なくするため車体の改良も随時行われている。

無人カラオケ



- 無人のカラオケBOX。全て電子決済。
- アカウントを紐付け、過去に歌った曲などのデータが残る。
- 録音しSNSに投稿することもできる。
- 商業施設、駅、空港などにも設置され、少しの待ち時間などで利用されている。
- 料金は、1曲8元。15分20元、30分38元、60分58元。月額パックも登場。66元（1,082円）

会社概要

- 2006年創業。創業者フランク・ワン。ドローンの企画・研究・製造・販売。
- 民生用ドローンの世界シェア70%超。生產品の80%が輸出用。
- 本社：深圳市 拠点：アメリカ・ドイツ・日本・北京・上海・香港。ヨーロッパではオランダにアフターサービス拠点。
旗艦店：深圳、上海、香港、ソウル（役割：店舗デザインを統一しブランドイメージを向上させる。製品・文化の市場調査）
- 売上高：2017年 100億元を突破（1,639億円） 急スピードで成長を遂げる。
- 従業員：創業時20名→現在では1,100名超。うち20%を研究開発チームが占める。
- 保有特許：5,950

DJI ドローンの活用領域

- 空撮ドローンのシェアは世界一（得意領域）
HDリアルタイム画像転出、カメラ一体型、手ブレ防止機能の搭載など様々な技術が映像業界に革命を起こしてきた。
- 産業用ドローンの開発に乗り出す。（現状では他社に劣る領域）
（農薬散布ドローンの特徴）
障害物探知（木、建物）、ホバリング（センサーで地上からの距離を一定に保つ）
細かいコース設定、マルチコプター（パーツの一部が故障しても全体でバランスを保つ）



DJIの商品ラインナップ
マルチコプター型空撮用ドローンが並ぶ

ドローンの活用可能性

- ドローンは時代を作り上げていく可能性のあるプロジェクト。
- 不動産での活用：建設、建築の進捗管理に活用。
空撮して入所希望者に立地のプレゼンをするなど販売促進に活用。
- 測量部門での活用：政府が違法建築物の確認や、テロの要因となるものの検知などに活用。
- 災害地での活用：人が入り込めないエリア、状況把握、有害物質の検知、火元の確認などデータ収集をすることで救助計画を作成することが可能。



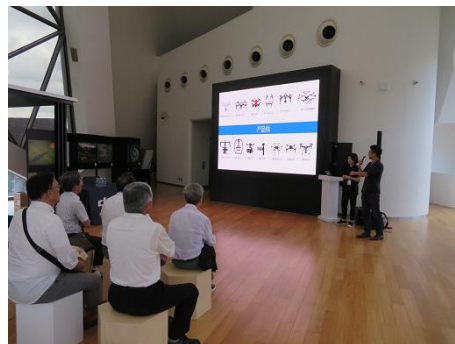
産業用ドローン（農薬散布用）
バッテリーの開発が課題

技術開発・教育

- 技術開発と教育の観点から、大学生向けのロボットコンテストを開催。（約13億円を支出）
- 当社は学生にモジュールを提供。学生はそれをカスタマイズして新しい商品を作って競う。優勝賞金は20万円（327万円）
- 好奇心、期待感を育てエンジニアに対する興味を増幅させることが目的。



D J I 旗艦店 外観



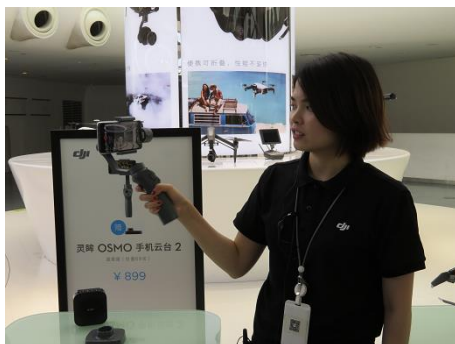
会社概要について説明



デモ操作
スマホをコントローラーに使用



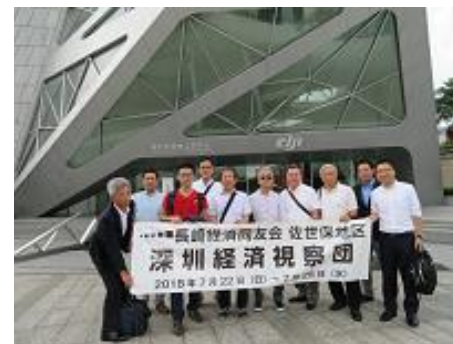
デモ操作
認証した手のひらで操作



技術を応用した製品
顔認証で対象物を追いかける



ドローン操作体験
認証した手のひらで操作



集合写真



集合写真
ドローン搭載カメラで撮影

概要

- 南山区にある「ハイテックパーク」。A I ・ V R ・ フィンテック ・ I o T など、ハイテック産業が多く集まる地区。
- 「深圳湾創業広場」には、深圳市が運営するベンチャーキャピタルやスタートアップ企業が集積している。



深圳湾創業広場



テンセント新社屋ビル正面入口



テンセントが運営するスーパー
E C 専門からリアル店舗出店



店舗内の様子
支払は電子決済



【深圳湾創業広場】

深圳市政府主導のもと、2015年6月に運営を開始。
スタートアップ企業やものづくりをサポートする組織や企業が集積している。
18棟の高層ビルからなるこの地域には、新社屋ビルをオープンさせたテンセントをはじめ、
大手企業グループが運営するインキュベータやアクセラレータなどが連なる。

(引用：深圳湾科技发展有限公司HPより)

長崎経済同友会 佐世保地区
深圳経済視察団 報告書

作成日 平成30年8月10日

発行者 長崎経済同友会 佐世保地区
代表幹事 吉澤 俊介

製作 長崎経済同友会 企画委員会
委員長 西沢 雅幸（視察団長）

長崎経済同友会佐世保地区 事務局

〒857-0806

佐世保市島瀬町10番12号（親和銀行地域振興部内）

電話0956-23-3509